

『耕人塾』開設による人材育成と地域貢献

木村 民男

Upbringing Capable Persons and Contribution to the Local Community through the Establishment of “Koujin-juku”

Tamio KIMURA

Department of Human Science, Faculty of Human Education of
Ishinomaki Senshu University 980-8580, Miyagi, Japan

1 はじめに

38年間の中学校教員・社会教育主事・学校管理職・教育行政及び4年2か月の教育長として直接教育に携わる中で、学校を超えて地域で若い人材を育てることの重要性を痛感してきた。それは、人材育成や教育は学校任せという風潮があり、地域で人を育てるといった認識が希薄だと感じていたからである。人を育てることを他人任せにしていたのでは地域そのものが育たない。人を育てるということは自分を育てることであり、学び合いや教え合いが人間の向上心や努力、感謝や責任感、謙虚さや思いやりにつながるからである。つまり、「まちづくりは人づくり」といわれるように、若い人材を育成する中で、それに関わることで大人自身も成長し、石巻地域全体のまちづくりへと発展していくと考えている。

特に、平成23年2月11日の東日本大震災からの復興には人材が不可欠である。この大災害をプラスに変えていくためにも人材育成が急務である。平成24年6月1日から石巻専修大学に勤務することになり、新しく設置された人間学部とも関連させて、石巻地域の高い志を持った中・高校生を対象に、「人間力」を磨いて地域や社会に貢献する人材を育成するために『耕人塾』を立ち上げた。

地域全体で人材育成に関わるという方針から、指導協力者には石巻地域の小・中学校の教員や社会人に依頼した。また、指導補助員として石巻専修大学の学生を関わるることにより、学生の成長にもつなげたいと考えた。さらに、講師陣は石巻地域の各界各層で活躍している方をお願いし

た。そのような取り組みが石巻地域の人材育成と地域貢献につながっていくと考える。その実践報告をしたい。

2 経緯及び内容

(1) 準備日程

- ① 7月：要項作成、要項検討会、学長他大学関係者及び学部長会で説明し、了承を得る。
- ② 8月～9月：東部教育事務所・石巻市教育委員会・東松島市教育委員会・女川町教育委員会・石巻地区高等学校協議会長に説明し了承を得る。また、石巻地区11高等学校（含む石巻支援学校）及び東部教育事務所管内小中学校長会議で趣旨を説明する。
- ③ 10月：指導協力者の準備会を3回開催し、第1回『耕人塾』を10月20日（土）に実施した。

(2) 名称・組織

- ① 名称を『耕人塾』（担当：特任教授木村民男）とし、事務局を石巻専修大学に置く。
- ② 組織は塾長、指導協力者（教員及び地域の協力者）、指導補助員（大学生）とする。

(3) 指導内容

- ① 「人間力」を養うための心構えを持たせ、討論や実践活動をとおして、「人間力」を向上させる。
- ② 「文・武・楽三道（学問・武道・スポー

『耕人塾』開設による人材育成と地域貢献

ツや趣味)」の体験をとおして、人間的な幅を身につけさせる。

- ③ 「日本の伝統文化」を体験し、心と姿を整え、礼儀作法を身につけさせる。

(4) 日時・場所

- ① 毎月1回（第3土曜日 18:30～20:30）実施（平成24年度は6回開催）する。

- ② 場所は石巻専修大学とする。

(5) 対象及び定員

- ① 保護者の承諾を得た石巻地域の中学生及び高校生とする。

- ② 定員は30名程度とする。

3 開塾までの準備

(1) 広報活動

① ポスターの制作

『耕人塾』は新しい事業であり、その内容を理解してもらうためにはポスターを制作し、対象となる中学校や高校に掲示依頼する必要がある。

ポスターは、『耕人塾』の内容が一目瞭然になるよう工夫を凝らした。制作にあたっては、パソコンに堪能なM教諭に依頼した。『耕人塾』の趣旨や私の考えをM教諭に伝え、メールで何度もやり取りして作成していただいたのが右のポスターである。

「大志を抱け」は高い志を持って入塾してほしいこと。「人間力を磨く」ことは『耕人塾』の柱であることを中心に制作した。

趣旨については、当初教師育成塾のニュアンスもあったが、中・高校生では進路未決定の者が多いという意見から、地域や社会に貢献する人材育成に方向転換した。

② 地元新聞掲載

『耕人塾』開塾にあたり、石巻地域の方々にその趣旨と内容を知らしめる必要がある。地元新聞社に取材を依頼し、9月6日の「石巻かほく」に開塾の趣旨、研修日程、研修内容、石巻専修大学人間学部との関連などの記事が掲載された。

その反響は大きく、6、7件の問い合わせ

中・高校生を対象にした人間力育成塾
「耕人塾」

石巻専修大学では、平成25年4月から、「文化・教育」の発展と貢献を目的とした「人間学部」（認可申請中）が開設されます。
この機会に、石巻地域から一人でも多くの、文化・教育発展への志を持つ、「人間力」を磨いて地域や社会に貢献する人材を育成するために、中・高校生を対象とした「耕人塾」を開設します。

1 「人間力」を磨くための心構えを持たせ、討論や実践活動等を通して、「人間力」を向上させる。
2 「文武両道（学習・読書・スポーツや趣味）」の両立を通して、人間性は磨き身に付けさせる。
3 日本の伝統文化を体験させ、心を豊かにする。

【内容】
1 「人間力」を磨くための心構えを持たせ、討論や実践活動等を通して、「人間力」を向上させる。
2 「文武両道（学習・読書・スポーツや趣味）」の両立を通して、人間性は磨き身に付けさせる。
3 日本の伝統文化を体験させ、心を豊かにする。

【期間】 平成24年10月20日（土）～平成25年3月16日（土）
毎月1回第3土曜日開催 計6回

【場所】 石巻専修大学2212教室

【時間】 18:30～20:30

【受講料】 無料

「耕人塾」説明会 平成24年9月15日（土）18:30～20:00
石巻専修大学2212教室
※ 説明会の事前申し込みは必須ありません。『耕人塾』の概要を説明し、説明会後、9月21日（金）まで、石巻専修大学（宛先：木村）に「申込書」を提出してください。【申込書】は説明会の時に配布します。

【お問い合わせ先】
石巻専修大学
住所：石巻市南境新水戸1番地
TEL：0225-22-7716（内線3051）
FAX：0225-22-7764

担任：石巻専修大学 担任教師 木村 民男

石巻専修大
中高校生対象 来月から討論・体験
人間力育成へ塾開講

石巻専修大学は、平成25年4月から「文化・教育」の発展と貢献を目的とした「人間学部」が開設される。この機会に、石巻地域から一人でも多くの、文化・教育発展への志を持つ、「人間力」を磨いて地域や社会に貢献する人材を育成するために、中・高校生を対象とした「耕人塾」を開設する。この「耕人塾」は、10月20日（土）から平成25年3月16日（土）まで、毎月1回第3土曜日開催の計6回となる。内容は、1 「人間力」を磨くための心構えを持たせ、討論や実践活動等を通して、「人間力」を向上させる。2 「文武両道（学習・読書・スポーツや趣味）」の両立を通して、人間性は磨き身に付けさせる。3 日本の伝統文化を体験させ、心を豊かにする。という3つの柱がある。この「耕人塾」は、石巻専修大学2212教室で開催される。受講料は無料である。説明会は、9月15日（土）18時30分から20時00分、石巻専修大学2212教室で開催される。説明会の事前申し込みは必須ではない。説明会後、9月21日（金）まで、石巻専修大学（宛先：木村）に「申込書」を提出してください。【申込書】は説明会の時に配布します。

【お問い合わせ先】
石巻専修大学
住所：石巻市南境新水戸1番地
TEL：0225-22-7716（内線3051）
FAX：0225-22-7764

担任：石巻専修大学 担任教師 木村 民男

せがあり、新たに2人の塾生の申し込みがあった。

3 説明会の開催

- (1) 日時：平成24年9月15日（土）18:30～20:00（場所：石巻専修大学）

(2) 日程

- ① 18:30～18:35 開会（司会：学生）
- ② 18:35～19:00 開会の挨拶（木村）
- ③ 19:00～19:30 説明（木村）、
- ④ 19:30～19:45 質疑応答
- ⑤ 19:45～19:50 閉会、
- ⑥ 20:30～21:00 反省会・解散

(3) 年間活動計画

回	月日 (曜) 教室	活 動 内 容 (基本パターン)			備 考 担当者
		全体学習 (挨拶、ショート講話、連絡) 18:30～19:10	班別学習 (テーマの確認、班別討議、まとめ) 19:10～20:10	全体学習 (発表、講評) 20:10～20:30	
1	10/20 (土) 2102	①挨拶 (塾長) ②講話「志とリーダーシップ」(石巻専修大学学長坂田隆氏) ③学習予定 (担当)	①自己紹介と役割分担 ①講話についての班別討議 ②班担当指導者の助言 ③班としてのまとめ	①討議内容の発表 ②まとめと次回の連絡 (担当)	・課題 (実践の反省) ・担当者 (舩田、宮崎)
2	11/17 (土) 2102	①挨拶 (塾長) ②講話「世界の中の日本」(二俣小学校教諭本田美希子氏)	①講話についての班別討議 ②班担当指導者の助言 ③班としてのまとめ	①討議内容の発表 ②まとめと次回の連絡 (担当)	・課題 (実践の反省) ・担当者 (村岡、若生)
3	12/15 (土) 2102	①挨拶 (塾長) ②講話「私の歩んでいる道」(東北学院大学野球部井上信志氏)	①講話についての班別討議 ②班担当指導者の助言 ③班としてのまとめ	①討議内容の発表 ②まとめと次回の連絡 (担当)	・課題 (実践の反省) ・担当者 (平塚、稲辺)
4	1/12 (土) 2102	①挨拶 (塾長) ②講話「日本の伝統文化～茶の湯をととして～」(茶道表千家教授石田邦子氏)	①日本の伝統文化と礼法を学ぶ ②体験したことについて班別討議 ③班としてのまとめ	①討議内容の発表 ②まとめと次回の連絡 (担当)	・課題 (実践の反省) ・担当者 (稲辺、中鉢)
5	2/16 (土) 2102	①挨拶 (塾長) ②講話「武道の心と形」(石専大特任教授 剣道七段木村民男氏)	①体験を通して武道の心と形を学ぶ ②体験したことについて班別討議 ③班としてのまとめ	①討議内容の発表 ②まとめと次回の連絡 (担当)	・課題 (実践の反省) ・担当者 (舩田、酒井、鈴木)
6	3/16 (土) 2102	①挨拶 (塾長) ②講話「石巻の復興を目指して～新たな出発～」(永末海産株社長永末勲二氏) ③学習予定 (担当)	①講師が伝えたかったことについて班別討議 ②班担当指導者の助言 ③班としてのまとめ	①討議内容の発表 ②まとめと次回の連絡 (担当)	・課題 (実践の反省) ・担当者 (若生、村岡、本田)

(4) 「人間力」とは

『耕人塾』では「人間力」を「徳・体・知」の面から次のように捉えている。

「徳」とは、人としての価値のある行いや精神の修養によって得た優れた品性のことである。すべての人は心の中に「徳」をもっているとされている。自分の中にある「徳」を見つけ、自らの意志で自分の「徳」を養い育てていくことが必要である。

「体」とは、心と体のことである。「体」というと肉体のことだけが優先されるが、心と体は深いつながりがあり、表裏一体であると考えられる。心身の健康を保ち、体力や運動能力を高めるためには心と体を鍛え、食育も含めて基本的生活習慣を整えることが大切である。

「知」とは、知識や技能、学ぶ意欲、思考力・判断力・表現力などである。特に、中・高校生の時期に自分の「志」をしっかりと立



『耕人塾』開設による人材育成と地域貢献

て、目標達成に向けて一心不乱に勉強に打ち込むことが大切である。この時期の努力が一生の土台になるからである。

「耕人塾」では、「徳・体・知」をバランスよく学ぶことが、「人間力」を磨くことにつながるととらえた。

(5) 説明会の反省

教職課程を履修している学生を中心に5名の学生と8名の指導協力者との綿密な打ち合わせをして説明会に臨んだが、参加者は生徒18名、保護者15名、計33名で予想の半数にも満たなかった。アンケートの結果、趣旨についての説明はおおむね好評価ではあったが、『耕人塾』についての要望や意見については「今の日本にとって欠くべからざる塾であると思います。多くの生徒さんが出席することを祈念いたします」、「今年限りにせず、来年、再来年と人間力向上を目指してほしい」の2つ以外はなかった。主催する側で考えているほど、高い志を持ち、自己の人間力を向上させて地域や社会に貢献したいという強い情熱はないのが当たり前のだと改めて反省させられた。今後の実施計画の中で理想と現実のギャップを埋めるための大幅な見直しを図る必要があると感じた。

4 『耕人塾』研修内容

- (1) 第1回『耕人塾』10月20日(土)
18:30～20:30

① 講話：「志とリーダーシップ」・出会いの

アクティビティ

- ② 講師：石巻専修
大学学長 坂田
隆 氏
③ 担当：舩田、宮
崎、平塚、稲辺
④ 講話内容

外国での研究体

験から、「あきれ
るくらい大きな志

の方がよい、つらい場面ではにっこり笑ってやろう」「目標は高く、志を大きく持て」「日本一ではなく世界一を目指せ。願えかなう」「苦しい時、辛い時こそ笑顔が大切であること」「話し方、姿勢、ご飯の食べ方が大切である」など、第1回の『耕人塾』にふさわしい熱いメッセージの講話をいただいた。

⑤ 塾生の感想

- ・ 絶対ぶれない大きな志を持ち、それに向けて本気で取り組みたい（高3男子）。
- ・ 志を大きく持ち、日々の努力を欠かさず、笑顔を絶やさず生活をしたい（中2女子）。
- ・ 大きな志を持ち、判断を迫られたときに逃げない生き方をしたい（高3男子）。
- ・ 一日の始まりに今日やることを決めて実行したい（中3男子）。
- ・ 辛い時でも笑顔を絶やさず、自分から進んで家事をしたい（高2女子）。



【塾生どうしの出会いの場面】思わず笑みがこぼれるアクティビティを取り入れて、塾生同士があいさつを交わした。



【講話内容について班ごとの討議の様子】

- ・ 部活動で後輩の指導をするときは、自分がやって見せて、元気を出し、盛り上がるように、常に意識して取り組みたい（高3男子）。
- ・ 生徒会長としての仕事が増え、多忙な日々ではあるが、話し方や姿勢、そして笑顔を忘れずに充実した活動をしている。これからも日々の努力を欠かさず、志を大きく持って生活していきたい（中2女子）。
- ・ 私が講話を聞いて実践できたことは「何事も逃げない」です。これからは勉強や部活ではとても大変でいやになる時もありますが、何事も逃げずに取り組む努力をしていきたいと思います。「いつでも笑顔」と「はい、いいえ」をはっきり言うという目標は、意識してやっていきたいと思います（高2女子）。
- ・ 辛い時、逃げてしまうときもあったので、壁に当たった時には、きちんと正しい判断をし、笑顔で乗り越えたいと思う（高3女子）。

- ⑥ 地元新聞記事（石巻かほく H24.10.23）
地元新聞社に取材を依頼し、第1回『耕人塾』の様子を掲載していただいた。

- (2) 第2回『耕人塾』11月17日(土)
18:30～20:30

- ① 講話：「世界の中の日本」、アクティビティ「世界がもし100人の村だったら」
② 講師：石巻市立二俣小学校



教諭 本田美希子 氏

- ③ 担当：村岡、若生
④ 講話内容

ガーナで過ごした2年間の生活で感じたことや、日本人として考えたことについて講話をいただいた。特に、日本より貧しいのに笑顔が素敵、勉強をする喜びを感じている、日本が失ってしまったガーナで感じられる幸せ、子供たちは家族のために働いているが明るくたくましく生きている、海外で日本のスタンダードを求めないでその国の良さを見つける、「あたりまえ」って素晴らしいなどについて、写真や映像を交えた講話を通じて、世界には様々な生活、文化、価値観があることを学んだ。そして、今ある生活が恵まれており、これからどうあるべきかを考えさせられた。

- ⑤ 塾生の感想

- ・ 常に周りの人に感謝する姿が素晴らしい

い（高2女子）。

- ・ 当たり前感謝して笑顔で前向きに生きていきたい（高3女子）。
- ・ 食事の前と後の「いただきます」「ごちそうさま」や「ありがとう」を、気持ちを込めて言うようにしたい（中1男子）。
- ・ いろいろなことにチャレンジしてたくさん経験を通して、前向きな自分を育てていきたい（中2女子）。
- ・ 当たり前の生活が実は当たり前でなかったことや、ものに限らず相手に対しても思いやる心などあらためて考え直すことができた。これからも感謝の心を忘れずに生活していきたい（高1女子）。
- ・ 自分も優しくならなければならないが、その第一歩として自分に優しくしてくれる人、支えてくれる人を大切にしたい（中3男子）。

(3) 第3回『耕人塾』12月15日(土)

18:30～20:30

- ① 講話：「私の歩んでいる道」
- ② 講師：東北学院大学野球部主将
井上信志 氏
- ③ 担当：平塚、稲辺
- ④ 講話内容

仙台育英高校野球部時代 24 打席ノーヒットのどん底を味わい、その冬から一日千本スイングをした。キャプテンになって迎えた秋の大会、優勝候補だったがベスト

8で終わり、屈辱を味わった。次の年、全員野球で勝ち取った甲子園出場は最高の思い出になった。野球部の部室に貼られている言葉「努力した者が必ず成功するとは限らないが、成功した者は必ず努力している」など体験を踏まえて熱く語ってくれた。

⑤ 塾生の感想

- ・ 受け身では何も変わらない。決断力が大切であることが分かった（高3男子）。
- ・ 「後ろを振り返った時、足跡が残るような生き方」「人の良いところを3つ見つける」と言う言葉が印象的だった（高2男子）。
- ・ 「結果が見えるものは努力とは言わない。やっても結果が出るかでないかわからないのが努力である」ということを学んだ（高1男子）。
- ・ 「努力した者が必ず成功するとは限らないが、成功した者は必ず努力している」という言葉に感動を覚えた（高2女子）。
- ・ 最後までやり通したことで、誰もが認める存在になったという井上さんの努力に感動した（中2男子）。
- ・ キャプテンに必要なことはやり抜くことと、仲間を認めることであるということ学んだ（中3男子）。
- ・ 後輩に練習で何かを伝えようとするとき、言い方に注意するようにしたい（高



(井上君の一日千本スイングのバットと手袋)



(甲子園で活躍したときの映像を見ながら説明する井上君)

3男子)。

- ・ 愚痴やマイナス発言をしないように気を付け、普段あまり接したことのないクラスの人と関わり、良い点を見つけない(中3男子)。
- ・ 友達をよく知り、たくさんの長所を見つける努力をしたい(高1女子)。
- ・ 講話を聴いている中で、部活や学校・教室に来ることができなかった友達の家に行き、来させるようにしたと言っていました、私は部長なのに部活に来ることができない人から目を背けているところがありました。これからは何かできることを探し出してその人や周りの同級生・後輩を動かすことができるようにしたいです(高3女子)。
- ・ 何にでももっと努力を積むべきだと思った。もう少しの努力をする気持ちだけで変わるものがあると思う。だから、もっと努力をしたいと思う(高2女子)。
- ・ 反省は目標を決めても妥協してやらない日があったことです。これからは結果が出せるかどうかはわかりませんが、毎日継続して妥協せずやっていきたいです(中1女子)。

(4) 第4回『耕人塾』

1月12日(土) 18:30～ 20:30

- ① 講話：「日本の伝統文化と礼儀作法」
～茶の湯をとおして～
- ② 講師：茶道表千家
教授 石田邦子 氏
- ③ 担当：稲辺、中鉢



【茶道体験の様子】おもてなしの心とは何かを学びました。

④ 講話内容

石田先生の「茶の湯を通して」の講話は、茶の湯とその指導に取り組んできた石田先生の人間性からにじみ出た言葉で、塾生は熱心に聞き入った。その後、会場を移して畳の部屋でお手前を実践していただいた。塾生は慣れない手つきではあったが、石田先生のお弟子さんの親切な指導により、日本の伝統文化である茶道を体験することができた。

⑤ 塾生の感想

- ・ 茶道は相手を思いやる心、気づきが大切、「一期一会」の出会いの大切さを形に表すことが分かった(高3女子)。
- ・ 日本の伝統文化は形から入って心で学ぶ。動作一つ一つに意味があることがよく分かった(高2女子)。
- ・ 「お先に頂戴いたします」「もう一服いかがですか」の心遣いが大切であり、それは日本にしかない良い伝統であることが分かった(中3女子)。
- ・ 常に相手に対して思いやりの心をもって、相手を敬って日々の生活を過ごしていきたいと思った(高3男子)。
- ・ 何事も一期一会だと思って毎日を大事に過ごそうと思います(高1男子)。
- ・ 周りの人に自分から声を出して挨拶をするようにしたいと思います(中2男子)。
- ・ 茶道の基本の礼儀を生活の中に取り入れて生活をするようにしたい。「人」「物」だけではなく「事」にも思いやりを持つ(中3男子)。
- ・ 家族や友達と「一期一会」について話しました。人生は1回きりだから、僕はその1回きりの人生を充分楽しみたいと思っているので、自分の好きなことについて考えてみました。そうすることで、何気なく過ごしていた日常の素晴らしさに気付くことができました(中3男子)。
- ・ 前期選抜に合格したので、新しい自分の目標ができました。1つ目は文武両道です。熱心に勉学と部活動に励み、とも

にいい成績を残したいと思います。2つ目は、「新しいことにチャレンジ」です。今回の講義で学んだ「一期一会」のとおり、人生で同じことは繰り返せないの、逆の発想で新しいことにチャレンジしようと思いました。この2つの目標が達成できるように日々を大切に過ごしたいと思います（高3男子）。

- ・ 私はお琴を習っているのですが日本の伝統文化の素晴らしさを広めていきたい（高3女子）。
- ・ 一日を振り返るということは、反省にもつながるということが自分にとって新しい発見だった（中3女子）。
- ・ 日本の伝統文化を勉強して「志」を大切にしていきたいと思いました（高2男子）。

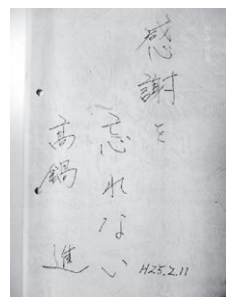
(5) 第5回『耕人塾』2月26日(土)

18:30～20:30

- ① 講話：「武道の心と形」
- ② 講師：剣道教士七段 木村民男 氏、
日本剣道形協力者：剣道教士七段
菅井吉秀 氏
- ③ 担当：舩田、酒井
- ④ 講話内容

ショート講話では、平成24年11月3日に行われた第60回全日本剣道選手権大会で、大会史上初の3連覇に挑む高鍋進選手（神奈川県警36歳、剣道錬士6段）のDVDを見ながら「武道の心と形」を学んだ。高鍋選手は準決勝で敗れて3連覇はなかったが、悔しさを心に止めて礼儀正しく堂々としている姿が誠に清々しく、会場を

後にする高鍋選手に観客から万雷の拍手が沸き起こった。塾生の感想の中に武道の素晴らしさや人間としての品位ある姿に感動したという声があった。その後、木刀を使っている構えや素振りを体験した。最後に、木村教士七段と菅井教士七段の日本剣道形が披露された。全体学習の場で高鍋選手からいただいた「感謝を忘れない」というサインのコピーを全員に配った。



⑤ 塾生の感想

- ・ 武道は礼に始まって礼に終わるということや悔しい気持ちを抑えて相手を尊重する姿に感動した（中1男子）。
- ・ 剣道は相手を尊重する武道なので、相手に対して感謝の気持ちを忘れないことや自分に対して厳しく律することが大切であることを学んだ（中3男子）。
- ・ 追うより追われる方が難しい。全日本剣道選手権3連覇に挑み、自分と戦っている高鍋選手の姿に感動した（高3女子）。
- ・ 中学校を卒業して、先生・家族・仲間を支えられてきたことを実感しました。本当に感謝したいと思います。感謝の意を表すためにも先生にプレゼントを贈りました。家では、今までよりも家事を多く手伝って感謝の気持ちを表していきたいと思います（中3男子）。



- 日本の伝統文化である礼儀作法を実践したいと思う。「己」を知り、自分の弱点や良いところを分析して、それを改善・発展させられるようにしていきたい(高3女子)。
- 相手への敬意を忘れないで慢心しないようにし、感謝の気持ちを忘れないで生活したい(高2男子)。
- 今自分がここにいるのはこれまで自分に携わってきてくれた人がいるのだからという気持ちを忘れず、必ず心に刻み、一時も忘れないようにしたい(中3男子)。
- 今回私が実践しようと思ったことは「礼儀を大事にする!」「感謝を忘れない!」です。礼儀では先生に挨拶するときにはきちんと止まって挨拶をするようにします。今まで使っていた2年生の教室を少しでもきれいになるよう掃除して進級したいと思います。日本剣道形はとても感動しました(高2女子)。
- 私の部活は吹奏楽部なので、ひとつ何十万円、何百万円という楽器を使っています。それをぶつけてしまったりした時は、楽器に対してと、ぶつかった物や人に謝るようにしています。しかし、今回の講話を聞いて、謝ることだけではだめだと思いました。私の顧問の先生は演奏面だけではなく、友達などのことまで気

にかけてくれます。それで、先生に感謝の気持ちを忘れないようにしたいと思いました(中2女子)。

(6) 第6回『耕人塾』3月16日(土)

18:30~20:30

- ① 講話:「石巻の復興を目指して」
- ② 講師:末永海産株式会社代表取締役 末永勘二氏
- ③ 担当:若生、村岡
- ④ 講話内容

はじめに、末永海産で実施している「朝礼」についてのお話があった。まず、司会者がきびきびと歯切れよく司会進行をし、末永海産の経営理念を唱和する。その後、部長・室長・社長から報告・連絡・相談・確認をし、幹部が持っている情報を皆で共有することの大切さについての説明があった。次に、挨拶や本の輪読の実践活動について指導をいただいた。経営の基本は「人」であるということを強調された。

⑤ 塾生の感想

- 自分の志や夢を考えながら生きないと失敗する。震災で大打撃、現実を変えるのは至難の業である。その中で教育がとても大事であるということが分かった(中1男子)。
- 震災後、従業員さんを全員解雇し3人から再スタート。理念を見直そう、漁師を見直そう、良い水産物を高く売ってい



- こうという方針転換で、震災から立ち直りつつある姿に感激した（中3男子）。
- 良い海を生かす努力、幸せのためにすべてを変える。社長としての責任の重さ、「朝礼」に力を入れ、情報を共有し、社員と共に自分も伸びていくという考えが素晴らしいと思った（中2女子）。
 - ピンチをチャンスに変えられる勇気を持って生活していきたい（高2女子）。
 - 自分の中での信念を見つけそれを貫き、人を幸せにするようなことをしたい（中2女子）。
 - 社長のように、この生まれ育った石巻を大事にしていきたい。常に希望をもって挑戦していきたい（高3女子）。
 - 今日話を聞いて、地元に対する思いを強く持つことが大切だと思う。失って気づくことがあると思うが、そうなる前に今を大切に生きるということが大事だと思う（高2男子）。
 - 末永先生の話を聞いて、震災で失ったものも多い中で、0からのスタートというのはとても苦悩があったのではないかと思います。私も将来の自分を見据えてできることから始めていきたいと思います（高2女子）。
 - 春からは高校生になります。大人へのステップアップとしてたくさんのことを学びたいです。また、『耕人塾』で学んだことを活かし、高校生活を充実するものにしていきたいです（中3男子）。
 - 私には夢があるのでそれを叶えるために頑張ります。不安や失望があふれる前に挑戦し、失敗を恐れずに生きていきます（高3女子）。
 - 今回の話を聞いて、本当に石巻のために力になりたいと思いました。それをすぐに行動に移して、これからもがんばりたいと思います（高3男子）。
 - 今日学んだことを今後の生活に生かしていき、今自分が何を学ばなければならないかを考えながら、自分の信念を貫いていきたいと思います（中1男子）。

- 講師の話を聞いてピンチはチャンスに変える勇気を学びました。ピンチは自分にとって悪いことではなく、変化するきっかけなのだと思います。これからはミスを恐れず何事にも取り組んでいきたいと思います（中1男子）。
- 今回の講話を聞き、改めて地元への思いを感じました。震災を前向きに考え、過去ではなく未来に向けて、一步でも歩んでいけるよう心掛けたいと思います。また、『耕人塾』で学んだことは忘れず、フル活用したいです（中2女子）。

5 塾生・指導補助員・指導者・講師の感想

(1) 塾生の感想（代表）

① H君（当時高1男子）

僕が耕人塾に参加した理由は、母に参加してみないかと誘われたからです。耕人塾に参加するまでの僕は、打ち込んで頑張るのがありませんでした。つまり、志というものがありませんでした。しかし、耕人塾に参加して月1回、様々な講師の方の話を聞き、一緒に参加している中・高生の人達と話し合ううちに、自分も志をもとうと思うようになりました。そして、その頃からイトナブという場所で前から興味をもっていたソフトウェア開発の勉強を始めました。そこで様々な活動をしていく中で、コミュニケーション力や礼儀作法など耕人塾で学んだ「人間力」が役に立ちました。

今は、自分が学んでいるソフトウェア開発の技術で、人々の為に何か開発をしたいと考えています。志をもつことで、以前よりも自分がやるべきことが明確になってきたので、これからも耕人塾で学んだ「人間力」で志を成し遂げるために努力していきたいです。

② H君の母親の感想

昨年度、耕人塾が開講した当初は、私の誘いにただ何となく付いてきた息子でした。しかし、心に響く話を聞き、仲間との話合いに刺激され、少しずつ変わってきた

ように思います。ちょうど、自分のやりたいことを模索している時期でしたので、何か、ぴったりくるものがあったのかも知れません。今は、失敗しながらも、自分なりの志をもって、進むべき道を拓いていっているようです。親の私も一緒に耕人塾に通い、毎回の講話を生徒になった気持ちで拝聴しております。また、親となった同級生との再会も楽しみの一つとなりました。

人生において、どのタイミングで、どのような方にお会いするのかということは、大変重要なことだと思います。この耕人塾で、様々なジャンルで活躍している方、塾生の皆さんと出会い、成長するきっかけを与えていただきました。これからも、仲間と共に人間力を鍛え、社会に貢献できるよう期待しています。

③ Mさん（当時中1女子）

私は、どうして？なぜ？という疑問符がたくさんついたままで中学校生活を送っていました。前向きに歩む人間になれるように、自分を変えたいとの思いを持ち「耕人塾」に申し込みをしました。私は、人見知りなので慣れるまで時間がかかります。人前で意見を発表するのがとても苦手です。話し合いの時も、なかなか自分の考えを言うことができません。耕人塾では、様々な分野の講話を聴くことができます。講師の方々の貴重な体験談は、一つ一つに重みがあります。私は、学校での授業とは異なる時間をそこで感じています。第1期生として、欠席することなく参加した私は、新しいことにチャレンジしてみようと自ら行動するようにしました。志を高く持ち、人間力を磨き、感謝を忘れない精神で。

まず、水道に関する作文コンクールに作品を応募しました。とても印象に残っているガーナの水事情の講話を参考にしました。作文特選、標語入選になり、嬉しく思いました。それから、海外ホームステイにも応募しました。作文や面接の際にも、「耕人塾」で学んだことを言葉にして表現しました。そして、この夏2週間、ニュー

ジーランドで貴重な体験をすることができました。現地の学校の壇上で、大勢の目の前に英語でスピーチをしました。周囲の人に対して、自分から英語で話しかけることもできました。自分を変えないといけなと、思い悩んでいた日々がありました。今、少しずつ行動しています。同じ志を持つ人たちと導いて下さる講師の方々との出会いに感謝しながら。

④ Mさんの母親の感想

「耕人塾」についての新聞記事が私の目に入り、娘に応募してみたらと声をかけてみました。そこには、中学校生活を楽しめていない娘の姿があったからでした。最初は参加したくない様子でしたが、彼女なりに考えた末に塾生の一人にさせていただきました。人前で話すのが好きではなく人見知りの子なので、有意義な時間を過ごせるのか心配でした。私も毎回楽しく拝聴させていただいておりますが、班別討議には娘の笑顔が見えているので安心しました。

第1期生の時には無欠席で修了式を迎え、現在2期生として参加させていただいています。以前に比べると、自分のやりたいことに挑戦する心意気が見えてくるようになりました。中学校内外において、自らやりますと声を上げてくる場面が増えてきているように感じられます。作文発表、作文標語コンクール応募作品には、耕人塾での体験を生かしているようです。また、海外ホームステイ参加応募の際には、親子面接があり娘の言葉の随所に耕人塾で学んだことが含まれていて驚きました。これから、英語暗唱大会出場、文化祭合唱コンクールピアノ伴奏と続きます。母親としては、大丈夫かしら？と思うほどです。耕人塾との出会いに感謝しております。ここでの貴重な体験は、わが子がこれから生きていく上で自信になることでしょう。人間力を磨くための素敵な時間が、長く続くことを願っています。

(2) 指導補助員（大学生）の感想

① Sさん（当時経営学部2年女子）

私が耕人塾に参加したきっかけは、木村民男先生のお誘いでした。お手伝いをして耕人塾に参加し、回を重ねるごとに生徒の皆さんが一回りも二回りも成長していく姿を見て、お手伝いをしている私も嬉しくなりました。そして、私自身も少しずつではありますが考え方や行動が変わってきました。耕人塾に参加できたこと、そして耕人塾を通し、参加されている皆さんに出会うことができて本当に良かったと思っています。

② O君（当時経営学部2年男子）

耕人塾指導補助員として参加し、そこで実際に働き、講話を聴くことによって、アルバイトや他の課外活動では体験できない様々な経験をすることができた。また、塾生の活動の様子から学ぶことも多くあった。例えば、班別討議での塾生のように私は見習わなければならないことがいくつもあった。一人一人が自分なりの考えを明確に持ち、相手の意見を聞く姿勢、態度は素晴らしいものだった。塾生たちは互いに初対面であるにもかかわらず、いつもスムーズに交友関係を進めている。それは、彼ら彼女らが「優しさ」、「気遣い」というものを持っており、それが「耕人塾」での講話や活動で確立されているからではないだろうか。塾生たちの様子を見て、自分自身をもっと鍛えていかなければならないといつも感じる。コミュニケーション能力や自分の考えや意志を明確に持つこと、そして相手の考えや主張を受け入れる姿勢など、塾生から学ぶことが多くあった。

先日のインターンシップ体験では、塾生から学んだことを自分なりに活かしてみた。職場で相手の考えを聴き、自分の考えや感じたことを伝えるなどコミュニケーションを取るよう努力し、与えられた仕事を精一杯務め、自分から積極的に行動することを心がけた。その結果、良い数日間を就業先で経験することができ、自分も非常によい刺激を受けることができた。以前の私ならきっとインターンシップもこれほ

どうまくはいかなかっただろう。

「耕人塾」は塾生だけではなく、指導補助員という立場にいる私でさえ学び、高まることができる場であると思う。それだけ、この「耕人塾」には人を向上させることができる「力」があるのだろう。私はこれからも「耕人塾」の指導補助員として活動する一方、自分も「学んでいるものの一人」として過ごしていきたいと思う。

③ M君（当時理工学部3年）

『耕人塾』の指導補助員として参加させていただきました。最初は高校や大学の授業のような堅いイメージを持っていましたが、実際に参加してみてそのイメージは少なくなりました。先生方が熱心に話しをしていて、とても興味深く面白い内容でした。耕人塾に参加していた生徒たちも最初は緊張しているようでしたが、真剣に話を聞き、回を重ねるごとに各班での話し合いが深いものになっていくのが感じられました。特に、各班のリーダーの存在は大きかったと思います。みんなの意見を聞き、短い時間で話をまとめようとする一生懸命な姿が見られました。年齢に関係なく仲良くでき、真剣に話ができるこの環境はとても良いなと思いました。短い期間でしたが、生徒はもちろん、先生方や親の方々など全体が成長できたと思います。

④ N君（当時経営学部3年）

私は耕人塾の指導補助員として4回参加しました。初めの討論ではあまり会話が弾



【毎回の講座を支えてくれる大学生に、塾生や保護者が感謝の拍手をしている様子】

んでいないように感じましたが、班内での話し合いでは、積極的に仲良くなろうとしていて感心しました。回を重ねるごとに交友関係も深まり、積極的に挙手したり、意見を述べたりしていました。班内の討論でも次第に内容がまとまりのあるものになっていくのを感じました。塾生の積極性や班内での自分の役割を理解してよりよいものをつくっていかうという意識が高まっていったのを感じました。

(3) 指導員の感想

① S氏（会社役員 45 歳男子）

この度、指導委員としてこの耕人塾にかかわることができて感謝の気持ちでいっぱいです。自分自身の学びもたいへん大きいものになりました。一般企業からの指導委員は私だけですので、不思議に思う方もいらっしゃると思います。きっかけは友人の会社に置いてあった一枚のチラシでした。手に取ってみると『耕人塾』?! …『中・高生を対象にした人間力育成塾』と書いてありました。人間力の大切さは普段から感じていましたので、とても興味が湧き、一般の聴講はできないかと考えました。塾長の木村民男先生に相談したところ「せっかくだから指導委員としてはいてみませんか。」ということでした。正直に申しますと、ビックリしました。私は、会社を社会の縮図のように捉えています。社員一人一人の人間力が上がり、その分会社が良くなると考えるからです。同様に社会が良くなり国が良くなると考えています。そうなるにはやはり自ら人間力を磨き、心を豊かに生きていくことがとても重要なのだと感じております。そしていつか誰かの心に灯をともし、影響をあたえてゆくのでしょう。『学び』に終わりはなく、そして一生が『学び』の連続である」ということをしっかり受けとめながら、私自身も「気づき・学び・与える」ことのできる人間でありたいと強く感じております。最後に、不慣れな私を快く受け入れてくださいました塾長はじめ指導協力者の皆様、本当にあ

りがとうございます。そしてこれからも、どうぞ宜しくお願い致します。

② I氏（中学校教員 43 歳男子）

社会貢献への高い志をもち、討論や文武楽三道の実践活動を通して人間力を向上させ、地域のリーダーを育てようと、木村民男塾長の強い思いが形となって動き出した耕人塾。その思いに共感し、たくさんの中学、高校、大学関係者、一般企業の方々が協力し、運営に携わっていただいた。講師先生も充実し、回を重ねるごとに人間力の種が塾生の心に蒔かれていくのを実感した。人間の心に蒔かれた種は、おもしろい発芽をする。向日葵の種は向日葵として発芽し開花するが、中高校生の心に蒔かれた人間力の種は、発芽する時期、開花するものはそれぞれ違う。辛さという種から優しさという花が咲いたり、失敗という種から成功という芽が出たりする。さて、平成24年度の塾生たちはどのような花をこれから咲かせるのだろうか。ぜひ石巻、宮城をリードする人間になって、それぞれに蒔かれた人間力の種を、個性あふれた美しい花に咲かせてほしいものである。そして、その志の種をたくさんの友人たち、地域の方々に蒔いていってくれることを願っている。

(4) 講師の感想

① H先生（小学校教員 30 歳女子）

講話では、青年海外協力隊としてガーナで活動した2年間に感じたことや、日本人として考えたことなどを写真や映像を交えて話した。特に伝えたかったのは「幸せとは何か」ということであった。ガーナは日本に比べ、物質的には決して豊かな国ではないが、ガーナ人と生活していると、とても幸せそうに見えた。それは、ガーナにはお金や物には代えることのできない心の豊かさに溢れていたのである。

世界には様々な生活、文化、価値観があるが、今ある生活がいかに恵まれており、これからどうあるべきかを考えるきっかけになれば幸いである。班別討議の中でも自

分の生活に置き換え、あたりまえの生活が幸せであることや、周りへの感謝を述べる受講者もおり大変嬉しく感じた。

② I 君(当時東北学院大学3年、野球部主将)

全員が野球やスポーツをやっているわけではない中で、お話をさせていただいたのですが、塾生の皆さんは何かを学ぼう、一歩でも成長して帰ろうという気持ちを持っていて、その情熱が伝わってきました。私は、自分が野球を通じて経験してきたことや失敗したこと、それを乗り越えてきたことなどを一生懸命伝えたつもりです。『耕人塾』では「人間力」を磨いて地域や社会に貢献する人材育成と聞いていますが、机の上だけの勉強ではなく、人間としての生き方を学ぶという点で素晴らしいことだと思います。私も石巻で生まれ育って、東日本大震災で被災した方々に元気を与えられるよう、自分に与えられた環境の中で努力していきたいと思っています。

6 成果と課題

(1) 成果

- ① 『耕人塾』の趣旨について、塾生一人一人に確認しながら研修を積み重ねていったので、主体的な研修態度が身についた。また、ショート講話では必ずメモを取り、そのメモに基づいてグループ討議をするので、自分の意見と比較しながら考えを深めることができた。特に、中学生は高校生から学ぶことが多く見られた。また、高校生は中学生のしっかりした考え方に触発され、発憤材料になることもあった。校種を超えた班内の討議では高校3年生がリーダーシップを発揮して班内の意見をまとめ、発表者は自分の考えも併せて話すなど、研修会を重ねるごとに発表内容が濃くなった。そのような中で、塾生が互いに切磋琢磨し、自己成長につながった。
- ② 各界の経験豊富な講師陣の講話を聞くことにより、ものの見方・考え方の多様性や人生の奥深さに気付き、自分の現在の生活

を見直そうとする姿勢が出てきた。『耕人塾』で学んだことを普段の生活や学校生活に生かし、顕著な成長につながった塾生もいた。(塾生の感想や作文参照)

- ③ 指導協力者が8名から12名に増え、若い教員が数名加わった。中堅教員の塾生を指導する姿から多くのことを学び取り、教員としての資質向上につながったという感想が聞かれた。また、若手会社役員の方が指導協力者として加わったので、教員とは違った視点から意見をもらった。指導補助員として参加した大学生の中には、自己成長につながったという声が聞かれた。

(2) 課題

- ① 塾生募集には条件を付けなかったため、塾生の参加意欲に大きな差があり、グループ討議などで話し合いに参加できず、後半欠席した塾生も数名いた。
- ② 新しい組織としての立ち上げだったので、試行錯誤の連続であり、方向を一部修正しながらの実践であった。
- ③ 指導協力者は教員11名、会社役員1名の構成であり、それぞれの役割分担を決めて6回の研修会を進めたが、一部の教員にかなりの負担をかけた。
- ④ 石巻専修大学学生数名を指導補助員として参加させ、研修の補助をお願いした。しかし、塾生への指導助言など主体的な活動までには至らなかった。
- ⑤ 石巻専修大学の学部長会や教授会で逐次情報提供をしながら進めてきたが、「『耕人塾』は大学組織のどこに位置づけたものなのか？」等の意見があった。人間学部長との相談で、大学と連携しながら、独自の活動という立場で実施したが、今後の検討課題である。

7 おわりに

年度途中で新規事業を立ち上げるということはいかなりのエネルギーがいる。石巻専修大学関係者、指導協力者、指導補助員、ボランティアで講話をいただいた講師の方々等々のお陰で、半年間6回の研修を無事終了することができ

た。反省点も多々あるが、『耕人塾』を立ち上げてよかったと思っている。特に、それぞれの学校で重要な役割を果たしている石巻地区の小・中学校の先生方には、月何回かの打ち合わせや講師との連絡調整、研修内容の組み立てなど全面的なご協力をいただいた。指導協力者名を記載し感謝の意を表したい。

今年度の研修で土台ができたとはいえ、石巻

専修大学との関連をどうするか、運営をどのように進めるか、運営資金をどのように調達するか、指導協力者の負担をどうするかなど、多くの課題がある。しかし、石巻地域の若い人材を育成していかなければならないという強い使命感は変わらない。何とか課題を乗り越えて来年度以降も継続していきたいと思っている。



【平成24年度 耕人塾 修了証書授与】・最終講座修了後に、記念写真撮影を行いました。

<指導協力者（敬称略）>

- ・横江 信一（東松島市教育委員会学校教育課長）、
- ・志小田 美弘（塩釜市立浦戸中学校校長）
- ・舩田 育久（東松島市教育委員会指導主事）、
- ・宮崎 敏明（東松島市立宮戸小学校教諭）
- ・酒井 勝則（東松島市立矢本西小学校教諭）、
- ・平塚 真一郎（石巻市立大須中学校教諭）
- ・稲辺 正浩（石巻市立石巻中学校教諭）、
- ・村岡 太（石巻市立大谷地小学校教諭）
- ・若生 孝之（石巻市立門脇小学校教諭）、
- ・鈴木 克範（㈱カクト鈴木商店役員）
- ・中鉢 佳子（石巻市立石巻中学校教諭）、
- ・本田 美希子（石巻市立二俣小学校教諭）

第1号 平成24年11月17日(土)	『耕人』	『耕人塾』 塾長 木村民男		
『耕人塾』が目指すもの				
10月20日(土)、念願の『耕人塾』をスタートさせることができました。ご支援ご協力いただいた多くの方々に心から感謝しています。私は「徳・体・知」のバランスのとれた人間を、家庭と学校と地域社会全体が連携する中で、実践活動を通して育てていかなければならないと常々考えていました。そのためには、人材を育てるための拠点と指導するスタッフが必要です。平成25年度から石巻専修大学の人間学部(認可申請中)の開学部をきっかけに、石巻専修大学を拠点とし、小・中・高校・大学の先生方や地域の方々の力をお借りしながら、石巻地域の中・高校生を対象に『耕人塾』を立ち上げることができました。 『耕人塾』で目指すものは、自分はこんな人間になりたいという高い志を持ち、多くの人との出会いの中で自分を耕し、自分を高め、世のため人のために働く人間を育てるということです。そのためには、徳を養い、心体を鍛え、知を高めることによって自己の「人間力」を磨いていくことが必要です。『耕人塾』が石巻地域の人材育成の拠点になることを願っています。 『耕人塾』では「人間力」を磨くために、次の3点を活動の方針にしています。				
① 講話等から物事を深く考え、主体的な討論、実践活動とおして自己の考えを深める。 ② 「文・武・楽(学問・武道・スポーツや趣味)」の講話や体験を通して人間的な幅を身につける。 ③ 「日本の伝統文化」の講話や体験とおして、心と姿を整え、礼儀作法を身につける。				
そのために次の10項目(未完)を大切に、研修を深めていきたいと思っています。				
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top; padding: 5px;"> ① 時間や約束守り、姿を整え、礼を尽くす。 ② 場に応じた服装・言葉遣いを実践する。 ③ 笑顔で挨拶をし、場を和やかにする。 ④ 素直・謙虚・誠実・明朗・恕を旨とする。 ⑤ 相手の話は目と心で聴き、メモを取る。 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top; padding: 5px;"> ⑥ 自分の考えを積極的に述べる。 ⑦ 主体的・自主的・協調的に行動する。 ⑧ 自己判断、自己責任を基本とする。 ⑨ 高い志を持ち、達成のために努力する。 ⑩ 逆境を乗り越える忍耐力を身につける </td> </tr> </table>			① 時間や約束守り、姿を整え、礼を尽くす。 ② 場に応じた服装・言葉遣いを実践する。 ③ 笑顔で挨拶をし、場を和やかにする。 ④ 素直・謙虚・誠実・明朗・恕を旨とする。 ⑤ 相手の話は目と心で聴き、メモを取る。	⑥ 自分の考えを積極的に述べる。 ⑦ 主体的・自主的・協調的に行動する。 ⑧ 自己判断、自己責任を基本とする。 ⑨ 高い志を持ち、達成のために努力する。 ⑩ 逆境を乗り越える忍耐力を身につける
① 時間や約束守り、姿を整え、礼を尽くす。 ② 場に応じた服装・言葉遣いを実践する。 ③ 笑顔で挨拶をし、場を和やかにする。 ④ 素直・謙虚・誠実・明朗・恕を旨とする。 ⑤ 相手の話は目と心で聴き、メモを取る。	⑥ 自分の考えを積極的に述べる。 ⑦ 主体的・自主的・協調的に行動する。 ⑧ 自己判断、自己責任を基本とする。 ⑨ 高い志を持ち、達成のために努力する。 ⑩ 逆境を乗り越える忍耐力を身につける			
第1回『耕人塾』には23名(中学生10名、高校生13名)の塾生が集まり、石巻専修大学学長坂田隆先生から「志とリーダーシップ」という題で、塾生の心に灯を点すような講話をいただきました。その後、4班に分かれて「講師が伝えたかったこと」について、熱心な班別討議が行われました。『耕人塾』終了後の指導協力者の反省会では、班長のリーダーシップの素晴らしさや各班の話し合いの内容の深さについて話題になりました。第2回が楽しみです。				
橋本左内(幕末の志士、安政の大獄で26歳で処刑)の「啓発録」を紹介します。左内が満14歳の時に、自らを奮い立たせるために、自己の行動規範を記したもので、5項目からなっています。一つは、「稚心を去る」子供じみた甘えから脱却せよ。二つ目は、「気を振るう」恥を知り、気力を充実し、人に負けないとする強い心を持つ。三つ目は、「志を立つ」高い志を持ち、自分の目標をしっかりと定め、精進せよ。味わい深い言葉です。(続きは2号に記します。)				

第2号

平成24年12月15日(土)

『耕人塾』

『耕人塾』

塾長木村民男

『耕人塾』の活動方針について

『耕人』第1号で、『耕人塾』の活動方針を3点示しました。今回は、この3点の活動方針について、具体的に述べたいと思います。

① 講話等から物事を深く考え、主体的な討論、実践活動を通して自己の考えを深める。

今年度の研修会は、それぞれの分野で活躍している講師をお招きし、ショート講話をいただくことにしました。『耕人塾』では、講師の話を目と心でしっかり聴き、メモを取って自分のものにすることが大切です。各自がつかんだ講師の思いや願いについて班別の討論をします。それを全体活動で深め、各自の実践活動に結び付けていこうとするところに特徴があります。大切なことは、主体的に取り組むことであり、日々の実践に生かしていくということです。その繰り返しが自分の考えを深め、人間力の向上につながると考えています。

② 「文・武・楽(仲間・武道・スポーツ・趣味)」の講話や体験を通して人間的な幅を身に付ける。

「文武両道」という言葉があります。昔は、「文」は学問、「武」は「武道」だったのですが、今は「武」は武道を含めたスポーツ全般ととらえられています。しかし、精神を鍛えることを主とする武道と楽しさやレクリエーション的要素が強いスポーツや趣味の「楽(く)」を分けた方が良いと思っています。「楽(く)」とは、心身の躍動や喜怒哀楽の素直な表現、生活の中での楽しさや潤いの追求です。スポーツの中には武道的要素を取り入れている種目もありますが、「文・武・楽」三道の視点からとらえるとすっきりします。そして、この三つは「人間力」にとってどれも大切なものであり、身に付ける努力をすることが必要だと考えています。

③ 「日本の伝統文化」の講話や体験を通して、心と姿を整え、礼儀作法を身に付ける。

1922年(大正11年)に日本を訪れたアインシュタイン(ノーベル物理学賞受賞者)は、「日本人の素晴らしいところは、きちんとしたしつけや心の優しさにある。日本人はすべての物事に対して物静かで、控えめで、知的で、芸術好きで、思いやりがあり、個人に必要な謙虚さと質素さを兼ね備えている」と絶賛しています。そのような日本人の精神の根底には、縄文時代から自然に対する畏敬の念をもち、人々が互いに協力し合って生きてきた日本人の「和」のDNAが流れているのだと思います。その上に、武士道によって意志力を自律心まで高め、人の生きる倫(みち)を大切にしてきた精神や俳句・短歌、茶道・華道などを生活の中に取り入れてきた芸術化の歴史があるのだと思います。『耕人塾』では、日本の伝統文化の講話や体験等を通して、その良さや深さを実感し、自分の姿や心を整えるとともに、国際社会に貢献し、国際社会をリードできるような礼儀作法を身に付けていくことが必要であると考えています。

橋本左内『啓発録』の続きです。四つ目は、「学に勉(つと)む」優れた人物の立派な行いを見習い、実行せよということです。五つ目は、「交友を択(えら)ぶ」自分の向上につながる友を選べということです。機会を見つけて、ぜひ『啓発録』を読んでみてください。今年も残すところ2週間余りとなりました。新年にあたり、1年間の自分の生活について「棚卸(とら)り」をすると同時に、平成25年の目標を立ててみましょう。自分の『啓発録』ができると面白いですね。

第3号

平成25年1月12日(土)

『耕人』

『耕人塾』

塾長 木村民男

「人間力」を磨くということ

『耕人塾』では、志を高くもった中・高校生の「人間力」を磨き、地域や社会に貢献する人材を育てることを目的にしています。「人間力」を磨くためには、「徳」を養い、「心と体」を鍛え、「知」を高める必要があります。『耕人塾』では「人間力」を「徳・体・知」の面から次のように捉えています。

「徳」とは、人としての価値のある行いや精神の修養によって得た優れた品性のことです。すべての人は心の中に「徳」をもっていると言われています。自分の中にある「徳」を見つけ、自らの意志で自分の「徳」を養い育てていく必要があります。具体的には正直・誠実・素直・礼儀・親切・思いやり・謙虚・感謝などの徳目を日々の生活の中で意識して実践していくことです。例えば、大事なことで失敗してしまったとします。そのようなときは弁解をせず、正直に誠実に理由を話し、素直に謝ることが大切です。今後そのような失敗をしないよう改めれば、一步成長したことになるのです。思いやりや感謝の心を形に表すことも自分の成長につながります。そのような普段の積み重ねが「徳」を養うことにつながるのです。

「体」とは、心と体のことです。「体」というと肉体のことだけが優先されてしまいがちですが、心と体は深いつながりがあり、表裏一体であると考えます。心身の健康を保ち、体力や運動能力を高めるためには心と体を鍛え、食育も含めて基本的生活習慣を整えることが大切です。例えば、決められた時間に自分で起きる、心身を鍛えるため運動を継続する、忍耐力を養うため高い目標を設定して挑戦する、食育も含めた基本的な生活習慣を見直し、日々の生活の中で規則正しい生活を実践していくということです。特に、人生の中の成長期である中・高校生時代に心身を鍛えることが一生の財産になります。

「知」とは、知識や技能、学ぶ意欲、思考力・判断力・表現力などのことです。特に、中・高校生の時期に自分の「志」をしっかり立て、目標達成に向けて一心不乱に勉強に打ち込むことが大切です。この時期の努力が一生の土台になるからです。そのためには、自分はどのような生き方をしたいのかという「志」が大切になってきます。目標とする生き方を目指すためにどのような勉強をどの程度やらなければならないかを自覚し、具体的な計画を立てて日々実践することです。環境の変化によっては自分の進路を変えざるを得ないこともあります。その時々、その時々の目標に向かって努力したことは決して無駄にはなりません。

書道家から「意先後筆(いせんひつ)」という言葉聞いたことがあります。自分の意識が先で筆は後からついてくるという意味だそうです。何事も自分の意識や情熱が先なのだと思います。「志」を高くもって「人間力」を磨いていく努力をしていくことが自分を成長させるのです。

「成徳達材(せいとくたつざい)」という言葉があります。「徳を高め、大成させ、能力を練磨し、上達させる」ことです。人生のあらゆる艱難辛苦(げんなんしんく)にあつても動じないように自分を磨き、自分を創る努力をし、その力を世のため人のために役立てていくことが大切です。利己のためだけでなく利他のために生きるという覚悟が逆境を乗り越える大きな力になり、人間を大きく成長させます。新年にあたって、新たな「志」を立ててみませんか。

第4号

平成25年2月16日(土)

『耕人』

『耕人塾』

塾長木村民男

『耕人塾』実践10項目について

「耕人」第1号で「実践10項目(未完)」を示しましたが、平成24年度の「実践10項目」を決定しました。それぞれの項目をじっくり読み、『耕人塾』ではどのような「人間像」を目指しているのかを考えてみてください。

- ① 志を高くもち、「人間力」を磨くために自ら努力する。
中・高校生は人生の中で心身共に大きく成長する時期です。自分を磨いていこう。
- ② 時間や約束を守り、場に応じた服装や言葉遣いをする。
信頼を得るには小さなことをしっかり守り、場に相応しい言動をしよう。
- ③ 心と姿を整え、礼節を重んじ、品位を身に付ける。
伝統文化や武道を学んで、心と姿を正し、礼節や品位を身に付けよう。
- ④ 相手の話を目と心で聴き取り、自己の成長につなげる。
相手は何を伝えたいのかを感じ取り、自分にとって有益なものを探し出そう。
- ⑤ 有事の際には正直に、誠実に、勇気を持って行動する。
一大事に遭遇したときは、正直に真心と勇気を持って行動する胆力を養おう。
- ⑥ 感謝の気持ちで相手より先に挨拶をし、和顔愛語で人に接する。
一期一会の出会いに感謝して自分から進んで挨拶をし、笑顔と優しい言葉かけよう。
- ⑦ 異なる立場や意見を尊重し、自分の考えを積極的に伝える。
多種多様な意見は議論の幅を広げてくれます。自分の考えを積極的に話そう。
- ⑧ 何事も主体的に考え、自己判断・自己責任を基本とする。
どんな場合でも自ら考え、判断・行動し、その責任は自分でとる覚悟を持とう。
- ⑨ 素直で謙虚な気持ちで学び、思いやりや奉仕の心を形で表す。
自分を成長させるために素直で謙虚に学び、思いやりの心で奉仕活動しよう。
- ⑩ 苦しさから逃げず、逆境を乗り越える勇気と忍耐力を身に付ける。
人生には多くの壁があります。その壁を乗り越える勇気と忍耐力を養おう。

これらの「実践10項目」すべてを完全に実践するという事は難しいことです。普段の生活の中で1つでも2つでも実践することによって、これまでの自分の生活が変化し、必ず成長につながっていきます。また、困難に遭遇した場合に、何を基準に判断し、行動したらよいかという指針になるはずです。この「実践10項目」を机の前に張り、その日の目標を定めて実践し、その結果どうであったかを反省することが大切です。

明王朝時代の崔銑(さいけい)の「六然(りくぜん)」を紹介します。「自処超然(じこじょうぜん)」とは、自分自身に関しては、物事にとらわれないようにするということであり、物事を判断する場合に自分の利益だけを考えないということです。「処人譔然(じょにんぜん)」とは、人に接しては、相手を楽しませ、場を和やかにするという事です。その人がいるだけで場が明るく、温かくなるような人になれば素晴らしいですね。

第5号

平成25年3月16日(土)

『耕人塾』

『耕人塾』

塾長木村民男

はしもとさない けいはつろく
橋本左内『啓発録』について

幕末の志士に橋本左内(1834~1859年)という人がいます。越前国(福井県)に生まれ、15歳の時に大阪に出て、適塾(てきじゅく)で医者(いしや)の緒方洪庵(おがたこうあん)等に師事し、蘭方医学を学びます。その後、水戸藩の藤田東湖(ふじたとうこ)、薩摩藩の西郷吉之助(さいごうきちのすけ)、熊本藩の横井小楠(よこいしょうなん)らと交流し、福井藩主の松平春嶽(まつairaしゅんがく)に側近として登用され、藩医や藩校(明道館)学監心得(がくかんにこころえ)となります。14代将軍巡る將軍継嗣(けいし)問題では春嶽を助け、一橋慶喜(ひとしはらの)擁立運動を展開し、幕政改革を訴えました。また、幕藩体制は維持した上で西欧の先進技術を導入するという開国論を展開しました。しかし、安政の大獄で捕縛(とく)され、斬首(ざんしゅ)となりました。享年(きやうねん)26歳でした。

橋本左内が数え年15歳の時に自分の生き方の指針として記した5か条が「啓発録」です。今の中学校2年生の時に書いた左内の「志」とはどんなもののでしょうか。

- ①「稚心(ちしん)を去る」：稚心とは、子供じみた心のことである。自分の好きな遊びにばかり熱中し、安楽なことばかり追いかけ、親の目を盗んで勉強や稽古事をおろそかにし、いつまでも父や母に甘えていてはならない。私は立派な武士になるために、稚心を去らねばならないと考える。
- ②「氣を振るう」：振気とは、負けじ魂を奮い立たせ、日々努力することである。士気を引き立てて奮い起し、人には負けぬという決意を忘れぬことが大切である。
- ③「志を立つ」：志とは生き方の決意を固めるということである。志を立てるには、聖賢(せいけん)の教えや歴史の書物を読んで、その中から深く心に感じた部分を書き抜いて壁に貼り、いつもそれを眺めて自己を省みて、自分の足らぬところを努力することが大切である。
- ④「学に勉む」：勉学とは、優れた人物の立派な行いを習い、自らもそれを実行し、自己の力を出し尽くして目的を達成するまで続けるということである。それには、書物を読んで我が知識を広め、心胆を練ることが大切である。
- ⑤「交友を択(えら)ぶ」：交友とは、自分が交際する友人のことである。益友(えきゆう)には自分から積極的に交わり、大切にすべきである。損友(そんゆう)がいたら、正しい方向へ導いてやらねばならない。

短くまとめましたが、各自「啓発録」読んで満14歳の左内がどんな人間になろうとしたのか考えてみてください。

平成24年度の『耕人塾』は今回(第6回)で終了です。平成25年度第2期『耕人塾』は5月からスタートします。来年度も『耕人塾』で「人間力」を磨いてみませんか？

「六然(りくぜん)」の続きです。「有事斬然(うじざんぜん)」：ことあるときは、ぐずぐずせず即断即決、即行動する。「無事超然(むじょうぜん)」：事なきときは、心が水のように澄んで平静である。「得意澹然(ていきんぜん)」：うまくいっているときは、淡々とあっさりしている。「失意泰然(しつゐぜん)」：思い通りにいかない場合でも、落ち着いて動じない。以上六つの然を書きましたが、一つ一つをじっくり味わってみてください。年齢や経験によっても感じ方が違います。

パワー結集

•• 6 ••



将来のリーダーとして期待される向学心旺盛な中高生たち＝石巻専修大

災から復興する中、石巻
野蒜が山縣より、地蔵
講義に集中する女川一
中二年木村圭一(13)は
「将来、建築家になりた
い。震災で多くの人が家
を失った。自分の設計
で、住んでもらいたい。」
と熱意を語った。木村は
「世界の中の日本」のほ
かに「武道文化」も「日
本の伝統文化と作法」も
「巻の復興を自指して」な
り、多岐にわたる。

甲子園出場を目指し、

人間的な幅広げる
リーダー、日本人として
の資質、心構えのほか
来生かされることがあ

将来見据え真剣に受講

身近な課題とグローバルな活動とに動められ参加した
化への対応など、講義や既に地元での経験が活か
すていけるけど、塾で多く
の地域や社会のあり方に
のこてを学び、それを生
活する関心を高め、人間
力、向上、人間性を高め
て力強く話した。

地域社会への貢献を

地域社会に貢献を

元東島教育委員、特任教授の木村哲長は、感銘を、三月まで開いて、極めて好評の学芸の場、動や木の出会いが、ある。木村哲長は、中、で、私たち大人も、よく、を、研、究、に、つ、い、て、入、学、高、校、時、代、は、人、の、土、と、分、多、い。1960年代の男性、は、開、講、を、欣、び、迎、え、る、。2回目の講座の開始前、多くの方々との交流を、費、い、身、を、鍛、え、知

石卷専修大「耕人塾」

■メ王 耕人點は地域社会に貢献する人材育成が目的で、対象は中高生。毎第5土曜日の午後6時半から8時半まで、石巻修養大開講。40分のショート講話の後、60分の特別授業を行い、20分でまとめをする。講話は教職員が主で、選手、民間企業担当者等。受講無料。

しかし、そこに至るまでの道のりは決して平坦ではありませんでした。多くの子どもたちが遊びに来てくれるにはどんな公園にするに良いのか? おじいちゃん、おばあちゃんものんびりできるとうにするにはどうしたら良いのかなど頭を悩

した。設置する場所の がっています。でも
選や購入使わい。 たちがわい。い
た問題も少な につ 樂にはバグッ
たのですが、ど にか トわります。でも
こうにか実現ま まで たちが元気動き回
着けたい。 ン、脇のベンチ座
とるでなバシタ な、またが偉い
公園が言と、昔バ だきでてる。ほの
ンダの置物があ った。ほのとに金銀し
からさうです。 その 上げられ、幸を感じ

バンタ公園

 内科久門医院

久門 俊勝
石巻市墨水町3丁目6の1
TEL 97-4141